岐阜新聞真学塾

出題　螢雪ゼミナール

長良北校・築樋拓真

国語を様々な側面からみて、日本語の面白さや深さを知ってもらえればと思います。

豆知識 雑学コラム

「子」の読み方は？

問題【国語】

今回は古文に出てくるなぞなぞです。左の言葉の読み方を考えましょう。

子子子子子子子子子子子

今回は、古文のなぞなぞです。皆さんは読み方がわかりますか？

ヒントとしては「子」の読み方です。「子」には3通りの読み方がありますよね。ひとつは「子ども」の「こ」、もうひとつは「種子」や「分子」の「し」、最後のひとつは干支の「子」の「ね」の三つです。この三つの読み方を組み合わせることで「ねこのこ、こねこ、ししのこ、こじし（猫の子、子猫、獅子の子、子獅子）」と読むことができます。このなぞなぞは、「宇治拾遺物語」以下の話の中で登場しています。

嵯峨天皇の時代に、天皇の住居の前に「無悪善」という立て札が立てられました。誰も「無悪善」の読み方がわかりません。そんな中で、小野篁（おのたかむら）という人物が「無悪善」を「悪さが無ければ善し」と読み、「さが」を「嵯峨」と掛けて「悪い嵯峨天皇がいなければ良い世の中になるのに」という意味だと説明しました。

嵯峨天皇はこの立て札に怒り、立て札を立てた犯人としてこの立て札の「無悪善」を読むことができた小野篁を疑います。疑う嵯峨天皇に対し、小野篁は「私に読めない漢字はない。だから読めたのだ。」と言いました。そこで、嵯峨天皇が今回のなぞなぞの漢字を出し、見事、「ねこのこ、こねこ、ししのこ、こじし（猫の子、子猫、獅子の子、子獅子）」と読むことで小野篁の疑いが晴れました。

実際立て札を立てたのが誰かはわかりませんが、小野篁は後に朝廷への不満を漏らし、隠岐へと島流しとなります。その島流しのときに詠んだ歌が、百人一首にも選ばれた「わたの原八十島かけて漕ぎ出でぬと人には告げよ海人の釣舟」という和歌です。もしかしたら、立て札を立てたのは、小野篁だったかもしれませんね。

【解答】

ねこのこ、こねこ、ししのこ、こじし
（猫の子、子猫、獅子の子、子獅子）